

平成 19 年 5 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社夢真ホールディングス
代 表 者 名 代表取締役会長兼社長 佐藤 眞吾
(コード番号 2362 大証ヘラクレス)
問 合 せ 先 執行役員経理部部長 青木 由行
(TEL 03-3580-5434)

平成 19 年 9 月期業績予想 (連結・単体) の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 3 月 22 日に公表しました平成 19 年 9 月期(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)業績予想(連結・単体)を下記のとおり修正いたします。

記

1.平成 19 年 9 月期中間単体業績予想の修正(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日) (単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	530	410	820
今回修正予想(B)	522	33	10
増減額(B-A)	8	443	830
増減率(%)	1.5	-	-
前期(平成 18 年 9 月期中間)実績	589	169	19

2.平成 19 年 9 月期通期単体業績予想の修正(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日) (単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,070	430	810
今回修正予想(B)	1,220	380	30
増減額(B-A)	150	810	780
増減率(%)	14.0	-	-
前期(平成 18 年 9 月期)実績	1,092	237	56

3.平成 19 年 9 月期中間連結業績予想の修正(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 30 日)
(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	33,100	200	970
今回修正予想 (B)	31,698	636	104
増減額 (B - A)	1,402	436	1,074
増減率 (%)	4.2	218	-
前期 (平成 18 年 9 月期中間) 実績	24,735	1,369	551

4.平成 19 年 9 月期通期連結業績予想の修正(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)
(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	56,000	1,400	2,000
今回修正予想 (B)	42,500	1,500	700
増減額 (B - A)	13,500	100	1,300
増減率 (%)	24.1	7.1	-
前期 (平成 18 年 9 月期) 実績	41,554	1,2860	69

5.業績修正の理由

(1) 単体

中間期

売上高について、人材関係子会社は堅調であるものの、株式会社夢真総合設備の譲渡及びその他子会社の業績軟調に伴う経営指導料収入が減少し、その結果として売上高は減少する見込みであります。

利益について、販管費の他、営業外費用として支払利息等があり、経常利益は 33 百万円となりました。

尚、前回予想では借入金の借り換えに伴う金融コスト、及び投資有価証券の売却損を営業外費用として見積り、経常損失を見込んでおりましたが、金融コストの圧縮に努め、86 百万円の削減となった他、表示方法の変更により投資有価証券の売却損を特別損失に計上することにより、経常利益の差異が生じております。

また、特別損益勘定では、株式会社夢真総合設備の売却益等で 2,170 百万円の特別利益を計上する一方、前述の投資有価証券の売却損 330 百万円、子会社株式の評価損 806 百万円、未上場の投資有価証券の評価額 243 百万円、及び、子会社等への貸付金に対する引当金として 536 百万円など、合計 1,966 百万円の特別損失を計上しました。中間純利益としては、資産を保守的に算定した結果、多額の特別損失を計上し、誠に遺憾ながら、前回予想を大幅に下回る 10 百万円を見込んでおります。

通期

売上高は、順調に推移している人材関係会社からの経営指導料及び配当等により、ほぼ予想通りの推移を見込んでおります。

経常利益では、主に中間期と同様の理由によるコスト削減並びに計上方法の変更により、前回予想と大幅に異なる、380 百万円を予想しております。

当期純利益としては引き続き子会社売却等による損益を織り込み、最終的に予想を大きく下回る、30 百万円と見込んでおります。

(2) 連結

中間期

当中間期は、株式会社夢真などの人材関係会社は好調に推移しておりますが、不動産、建設系会社及びその他事業系会社の業績が軟調で売上高は減少しました。経常利益では、人材関係会社の底固い利益の上に、その他業種の利益を積み上げ、636 百万円を予定しております。

但し、前回予想との差異につきましては、単体の中間期と同様の理由でございます。

また、株式会社夢真総合設備の株式売却益等で 2,012 百万円の特別利益を計上する一方、未上場株式の評価損として 372 百万円、のれんの減損処理として 807 百万円、貸付金に対する貸倒れ引当金 310 百万円、上場株式の売却損 332 百万円など、合計 1,982 百万円の特別損失を計上しております。結果として中間期純利益は、資産を保守的に算定した結果、多額の特別損失を計上し、誠に遺憾ながら前回予想を大幅に下回る 104 百万円を見込んでおります。

通期

株式会社夢真総合設備、勝村建設株式会社等の子会社売却により、売上高は大幅に減少する見込みです。

経常利益につきましては、コスト削減等の効果及び計上方法の変更等により、結果として予想に近い 1,500 百万円を見込んでおります。

しかしながら、特別損益では中間期に加え、子会社売却に伴う損益及びのれんの一括償却等もあり、当期純利益は予想を大幅に下回る、700 百万円を見込んでおります。

尚、上記の予想修正につきましては、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって変動する可能性があります。

以 上